

みやまの里

(農)東山茶業組合
静岡県掛川市東山1821-12
第40号 令和元年秋

茶草場の生き物たち

高品質なお茶を育てるため、草刈りを
して、茶園に草を敷く茶草場農法。それは
先祖の代から延々と茶畑の周りや急斜面の
草刈場を刈り続けてきたことで可憐な花々
や珍しい昆虫など

「絶滅危惧種」も育

てきたのです。一

般的に公園や道路の
法面は美観・安全の
観点から年に複数回
草刈りが行われます
が、ここの茶草場で
は草刈りは年一回。

春から秋に咲いた花は充分に実り、子孫繁
栄の種を落とし、地下茎につく翌年の芽も
勢力をつけます。刈るのは晩秋から冬。草
も運びだしてあるの
で春に目覚めた草花
の芽は周囲の草が
刈ってあるため丈の



フジタイゲキ



ニホンカモシカ



ササユリ

低い花も太陽の陽
を浴びぐんぐん成
長していくのです。

掛川茶を給食に

今年も掛川市・JA・茶商でつくる掛川茶
振興協会が「掛川茶進呈式」にて市内の幼保
園、小中高校、福祉施設など83か所の代表者
に贈りました。各茶業界から無償提供された
お茶は約2万人の児童・生徒・職員に2、5
70kgが配分されます。

静岡県だけの文化？

静岡県の小中学生が茶を飲んで食育の機会
を持つように「静岡茶愛飲条例」が数年前か
らあります。静岡県の公立小中学校で給食に
お茶が提供されたのは40%程度ですが掛川市
は100%。かなり昔から「お茶が出るにはあた
り前」になっていますね。

給食にお茶が出され、地元の小学生や幼稚
園の子供たちの「茶摘み・手揉み体験」「稼働
中の茶工場見学」「美味しいお茶の淹れ方教
室」は一般的に広く行われ「お茶のまち掛川」
に子供の頃から親しめるようになっていきます。
小学生は給食袋にコップを持参して「お茶
当番」がありお茶用のしゅう酸アルミの大き



カケガワフキバッタ

なやかながクラス毎に用意されているのです。
それは昔から変わらずに。

東山闘茶会の開催

闘茶会とはお茶を飲み比べ産
地を当てる「利き茶」の勝負の
ことです。「花・鳥・風・月・



客」の名前で分けたら種類の茶葉を実際に拝
見したり、小さな茶碗に入ったお茶を飲んで
「色・香り・味」のわずかな差を五感を使っ
て判断するのです。お茶といってもほうじや
玄米茶ではなくてすべて市内の深蒸し茶です
ので難解なのです。いつも上位に入賞する人
は本当にお茶がわかる達人ですね。入賞者は
この後、市内大会、さらに大きな大会へと進
んでいきます。

またこの闘茶会はジュニアの部もあります。
子供達がなにかと茶に関するイベントに参加
する機会が掛川市にはあるのです。

消費税引き上げに関して

いよいよ消費税が10月から引き上げられま
すが、お茶は食品のため軽減税率が適用され
今までと同じく8%です。また急須や贈答箱
につきましては標準税率10%ですが当組合で
は今までと同じ価格にて販売します。引き続
きご愛顧頂きますようお願い申し上げます。